

88ミニッツ FBI 異常犯罪分析医ジャック・グラム

2008(平成20)年2月20日鑑賞<角川映画試写室>

★★★★★



監督・製作＝ジョン・アヴェネット／出演＝アル・パチーノ／アリシア・ウィット／エイミー・ブレネマン／リリー・ソビエスキー／デボラ＝カーラ・アンガー／ウィリアム・フォーサイス／ベンジャミン・マッケンジー／ニール・マクドノー／リア・ケアンズ／ステファン・モイヤー（日活配給／2007年アメリカ映画／107分）

……アル・パチーノの3年ぶりの主演作はチョー面白い！ 67歳とは思えない頭の回転、ケータイの活用、そして肉体の動員はお見事！ さらに4人の美女たちとの微妙なスタンスはご立派だが、こんな事件に巻き込まれては大変！ 裁判員制度の実施を控えた今、法科大学院の授業や新人弁護士の研修に最適の素材だが、さて日本の法曹界にそこまでの度量や感性はあり……？ それにしても、こんな面白い映画が単館上映とは何とももったいないが……。

アル・パチーノファンは必見！ 67歳でメチャ元気！

ハリウッドきっての名優アル・パチーノが、『トゥー・フォー・ザ・マネー』（05年）以来3年ぶりに主演したのは、彼のために書かれ、作られたようなほとんど全シーンに彼が登場するスリリングなサイコ・サスペンス。「お前に残された時間は88分だ」という不気味な殺人予告の電話は、あと83分、あと79分、あと76分、あと72分、あと56分、あと37分、あと18分と次第に切迫してくる。

そんなリアルタイムでの緊迫感溢れる展開の中、67歳のアル・パチーノが、頭をフル回転、ケータイもフル活用、そして肉体もフル動員して挑んだのがこの作品。大阪での公開は天六ホクテンザだけらしいが、それではあまりにももったいない。なぜ、こんなメチャ面白い映画をシネコンにかけないの……？

それはともかく、この映画はアル・パチーノファン必見！ そうすれば、67歳でメチャ元気な彼の勇姿を拝めるはず……。

冒頭の法廷シーンに注目！

2009年5月から実施される裁判員制度に向けて、目下準備が着々と進んでいる(?)が、冒頭に登場する法廷シーンを観れば、日本人なら誰でも裁判員になるのは辞退したいと考えるのでは……？ アル・パチーノ演ずるジャック・グラムが今、「FBI異常犯罪分析医」として法廷で求められているのは、女性をロープで吊るして切り刻む連続殺人事件の犯人がジョン・フォスター（ニール・マクドノー）だと断言できるかどうかという大切な証言。双子の姉ジョーニーはそんな凶悪殺人犯の犠牲となったのだが、幸い妹のジェイニーは命を取り留めた。しかし、彼女は犯人の顔についてはあいまいな記憶しかなかったから、ジャックの証言が事実上12名の陪審員の判断の決め手となるわけだ。

さあ、そこで注目されるのがジャックの証言。そこで、ジャックが自信をもって証言したのは、犯人はフォスターに違いないということだった。これによって、フォスターは有罪となり、死刑判決が言い渡されることに。

この映画はそんな導入部からのスタートだ。そして、それから9年後。今日はフォスターの死刑執行の日の朝だが、そんな朝、ジャックは……？

還暦を過ぎても、あの方面はなお元気……？

2008年4月から順次還暦を迎える私の同級生たちは、今還暦記念同窓会の企画に大わらわだが、そんな仲間たちを見ていると、あの方面は枯れてしまった人が多いよう……？ しかしこの映画で観る限り、アル・パチーノ演ずるジャックはその方面もなおお盛ん……？

この映画には、後に紹介する4人の美女プラスアルファの女性たちが登場するが、ジャックはその大多数(?)と何らかの男女関係がある様子……？ もっとも、「俺は学生とは寝ない」というセリフは、ホントに彼のモットー……？ そんなジャックが今2人だけの朝を迎えているのは、バーで知り合い一夜を共にした女性サラ（リア・ケアンズ）。ネタをばらせば、このサラは一晩いくらかで身体を売る女だったのだが、弁護士を目指して頑張っている女性だとコロリと騙されていたようだから、コト女に関してはジャックはかなり脇が甘そう……。

それはともかく、2人だけで過ごす朝食タイムの甘さを打ち破ったのは、ジャック

のケータイにかかってきたFBI特別捜査官の友人フランク（ウィリアム・フォーサイス）からの電話。9年前のフォスターと全く同じ手口の猟奇殺人事件がまたもや発生したというわけだ。しかも今回は、ビデオまで残されているとのこと。これは一体……？

アル・パチーノには4人の美女が結集！

『88ミニッツ』はアル・パチーノにとって男冥利に尽きる映画。なぜなら、アル・パチーノ扮するジャックは、次の4人の美女たちに取り巻かれているのだから。すなわち、

①大学の授業助手のキム・カミングス（アリシア・ウィット）、②事務所で最も信頼する秘書であるシェリー・バーンズ（エイミー・ブレネマン）、③ジャックの教え子の1人で、暴漢に襲われたところをジャックが救出するローレン・ダグラス（リリー・ソビエスキー）、④大学の上司であり学生部長のキャロル・リン・ジョンソン（デボラ＝カーラ・アンガー）だ。

このうち、④のキャロルとは過去に男女関係があったようだし、①のキムからは熱い想いを寄せられている様子。またジャックは、②のシェリーと結婚してもいいと思っているらしいが、あいにくシェリーはレズビアン。こんな風には書くと、ジャックはいかにも男女関係にルーズな女たらしのように思えるかもしれないが、それは大きな誤解。つまり、それは単にジャックの魅力がなせる技なのだから……？

他方、スリリングな展開の中で明かされていく秘密の1つは、キムにはかつて結婚の経験があったということ。そして、キムの元夫のガイ（ステファン・モイヤー）は、キムがジャックに好意を抱いていることに敵意を抱き、ジャックの後をつけ回していたというから話はややこしい……。

法科大学院でもこんな授業を！

FBI 異常犯罪分析医として大活躍し、今は大学教授として学生たちに講義をしているジャックの授業は、さすがに面白そう。くだらない日本の大学の法学部の授業はもとより、あるべき姿を求めて2004年に創設されたはずの法科大学院の授業でも到底見られないような、実践的かつ有意義な授業風景がそこに。そんな授業ができるのは、ジャックの実績と今なおキープしている能力のおかげだが、日本の法科大学院でもこ

んな授業を目指さなければ……。

それはともかく、ビデオに映る残忍な犯行の被害者は、何とジャックの教え子の女性デイルだったから大変。ビデオの中には、「フォースターは、あの事件の犯人ではない」としゃべることを強要されるデイルの姿が……。これを知った検事局が、「フォースターは無罪なのでは……」という仮説を示したのに対し、ジャックは「単なる模倣犯だ」と切り捨てたが、さてその自信のほどは……？

そんな状況の中、突然鳴ったジャックのケータイには「お前の命はあと88分だ」という不気味な予言が。これは一体誰が仕掛けているの……？ スリリングな展開の中、興味はどんどん広がっていくことに……。

スピーディーかつスリリングな展開は、是非あなたの目で……

そんな理想的な授業風景だったが、実は教え子の男性マイク・ステンブ（ベンジャミン・マッケンジー）からはジャックの説に対する異論が出るわ、脅迫電話の持ち主を調べると、それはかつて猟奇殺人犯に惨殺されたジャックの妹の名義だったりで、ジャックの頭は大混乱。さらに、不謹慎にも（？）授業中にケータイを駆使していたジャックが、デイル殺害のニュースを知っていながら隠していたとして教室は騒然となったが、それ以上の大事件は爆弾を仕掛けたとの脅迫電話が入ったこと。学生たちが我先にと逃げ出したのは当然だが、誰もいなくなった教室の講義用の映写スクリーンには「あと76分」との文字が浮かびあがることに。

しかし、こんな展開はいわば第1ラウンド。以降、第2ラウンド、第3ラウンド、第4ラウンドとスピーディーかつスリリングな展開が続いていくが、この評論でそれを逐一フォローしていくのは到底ムリ。したがって、その後の展開は是非あなたの目で……。

キムは味方……？ シェリーは味方……？ さらにフランクは友人……？

この映画後半のポイントは、「あと何分」と細かく連絡してくる電話の主が誰かということだが、私を含めた観客にそれが全くわからないのは当然。だって、それがすぐにわかったのでは、この映画の脚本はボツになっていたはずだから……。

そのうえこの映画は、ジャックが絶対的に信頼をおいていた学生部長のキャロルや秘書のシェリー、さらにジャックへの協力を申し出て行動を共にすることになった授



© 2006 EQUITY PICTURES MEDIENFONDS GmbH & Co. KG Illand Nu
Imgae Entertainment GmbH All Rights Reserved.

業助手のキムにも疑惑がかかるように設定されているから、話はややこしい。他方、暴力的な行動に出るのはキムの元夫のガイだが、調査の結果彼はフォースターが入っているワラワラ刑務所から仮出獄中の身だということが判明。すると、ひょっとしてこのガイが獄中のフォースターからの指示を受けて動いているの……？

そんな疑惑が広まる中、ジャックとあの一夜を共にした女性サラが猟奇殺人犯の犠牲となってしまった。また、あの殺されたデイルの部屋にはジャックの指紋がベタベタあったうえ、デイルにはジャックの体液が付着していたとの報告が……。そこまでの物的証拠がそろえば、いかにFBI特別捜査官のフランクがジャックの友人だとしても、ジャックを容疑者だと断定しなければならなかったのは当然。したがって、ここまではキムと行動を共にしてきたジャックだったが、遂にジャックは万事休す……？

そんな中、ジャックのケータイに入ってきた「あと18分」という声は、それまでの男の声とは異なり、何と女の声に……。しかも、それはいつもよく聞いているあの女の声……？ これは一体ナニ……？ ジャックの頭の中は混乱していくばかりだったが、それでもアル・パチーノを主演とする映画は、ある一定の結論を迎えていくはず

……？ さあ、そんな疑惑に満ちた犯人捜しの過程をじっくりと……。

なぜか、フォースターの女性弁護人が気になっていたが……

なぜか私が気になっていたのは、映画の冒頭に展開されたフォースターの裁判で、フォースターの弁護人となっていた女性弁護士がジャックに対する検察側の尋問に対して、執拗に異議を述べていたこと。異議の内容は、日本の刑事裁判では到底考えられないようなジャックに対する個人攻撃を含むものだったから、さすがに裁判官はその異議を却下した。しかし、そこまで被告人と一体となった弁護活動には、ある意味弁護士として私は大いに共感を覚えたもの……。そのうえ、その女性弁護士がすごい美人でカッコ良かったから、私にはよけい強く印象に残っていた。さて、この女性弁護士はこの映画の中でどんな役割を……？

そんな私のカンが正しかったことが証明されたのは私にとってすごくうれしいが、そのネタばらしができないのが実に残念。とにかくこの映画は、107分の上映時間の中にありとあらゆるエッセンスを盛り込んだ超娯楽作(?)だから、一瞬たりとも居眠りなどしないように……。そして、刻一刻と「88ミニッツ」のタイムリミットが迫ってくる中、遂に迎えるクライマックスは……？ そして、そこに登場してくる生き残った人たちの役割は……？

2008(平成20)年2月20日記